

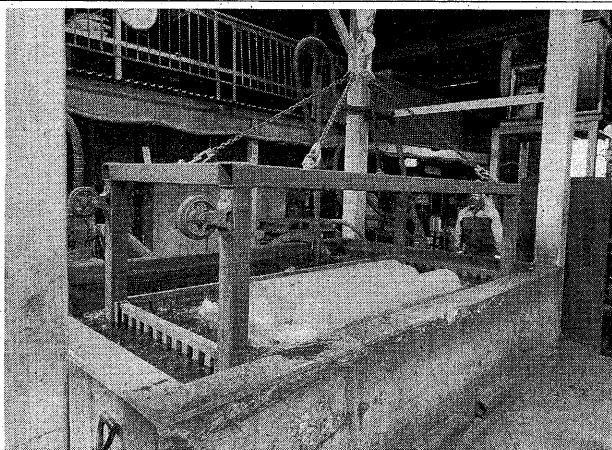
三芳合金、大物製品開拓

4ト超クレーン4基導入

【川越】三芳合金工業（埼玉県三芳町、萩野源次郎社長）は、親会社の大和合金（東京都板橋区）を含め、大型クレーンを年末までに計4基導入する。いずれも運搬能力は4トを超え、総投資額は数億円を見込む。特殊銅合金の加工や販売を手がける大和合金の三芳工場（埼玉県三芳町）と、三芳合金工業の本社工場と朝霞工場（同新座市）にそれぞれ設置する。昨今需要が増えている、大物製品のための素材提供などさまざまなニーズに対応する狙い。

クレーンは主に材料の溶解、鑄造後の冷却工程で使用する。三芳合金工業の朝霞工場には15ト1基を年

大和合金の三芳工場に4・8トを1基ずつ導入し、稼働を始めた。従来の2・8ト2基を4・8トに入れ替えた。本社工場には7・同工場では併せて、



4.8トの大型クレーンで行う素材の冷却工程
（埼玉県三芳町の本社工場）

最大5トを超える製品を流し込める金属製の鑄造金型を導入した。また、従来一つずつしか動かさなかった炉を1電源で二つ同時に稼働できるようなし、一度に5・5トのインゴットを鑄造できるようにした。これらにより生産能力や効率を高めた。近年、重工業を

はじめ大物の銅合金の需要が増えていることや、大物の合金を提供していた大手企業の撤退などもあり、高い技術力と品質力を持つ三芳合金工業への受注が増えつつある。

その中で近い将来を見据え、現時点で設備増強を進めて大型製品の案件に対応できるようにする。大和合金の社長でもある萩野社長は「三芳合金工業は特殊銅合金一筋のメーカー。高付加価値素材を自動車、航空・宇宙、半導体、核融合など幅広い業界に提供している。」と力を入れる。

は「近いうちにエネルギーや重工産業、プラステック用金型業界やロケット関係で新たな受注を獲得し、特徴のあるモノを作れたら」と力を込める。